

『新たな気持で、日々を決戦として闘いに突入する』^(反対同盟の決意)

日刊 動労千葉

82.1.18

No. 945

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆電話)二七二〇七

10 反対同盟旗幟まで発言より

三里塚現地は、断固たる二期決戦に突入した。反対同盟切り崩しのために、昨年暮運輸省審議官・服部某なる最高責任者が甘言と札束をちらつかせながら「話し合いたい」などと同盟員宅を訪れた。しかし小川喜平、嘉吉さんは、この農民を愚弄する卑劣な攻撃に「フザケルな！」と怒りの一喝をもって叩き出した。情勢は一挙に緊迫化し、一人一人、一日一日のしの

ぎを削る攻防戦に突入している。全ての組合員の皆さん、「一切の話し合い拒否、農地死守、空港廃港」を高々とかけ、3.28決戦突入下の一月十日、反対同盟の旗幟が成功裡に勝ちとられました。その中の決意と発言を紹介します。(編集委員会)

敷地内15戸を守り、部落をとるもどく闘う

三里塚闘争も16年がすぎた。うれしくもあり、長い様でもあったが、あつたかあつたかという間にすぎた。青行の団結小屋は二つあったが、木の根の一つは公団にとられた。もう一つは迎田にある。今年は新しい決意で闘いぬくために団結小屋を今月中につくりたい。青行の新しい気持、同盟の新しい気持で闘いぬくために、これから新しく一年一年を闘いぬく決意で日々を決戦としたい。われわれはごくありふれた生き方をしているのに、勝手に政府・公団のやり込んで来た。ありふれた生き方が闘いとなって、何か来ようか頑張つて生きる。私案だが、二期工事予定地を全部われわれがとりもどす

ことが必要だ。敷地内15戸が闘いぬけるよう、解体された部落をとるもどす。敷地内以外もとりもどす。敷地内15戸だけに責任をかせぐることではなく、全国の三里塚を闘う人達とこの力で部落をとるもどす。三里塚

3.28 十万人結集で勝利しよう

東京実行委代表・浅田光輝氏

の人民が集まれば、二期強行着工はふつとぶでしよう。

暮もおしつまって12月25日運輸省服部が現地に入った。小川両氏はこれを撃退した。三里塚反対同盟の皆さんの根性がいかなるものか、あらためて、支援もおしえられました。82年は決戦の年だと予断しました。私達は昨年11月独自に現地集会を成功させました。そのとき

の方針で、10万人結集をうち出しました。巨万の人で現地をうずめなければ敵とどうして戦えるかというこ

とです。10万人を結集してごらんさい、多く

追悼

1月12日早朝、常に三里塚闘争の先頭で闘い抜いてくれた老人行動隊長・相川豊彦さんが、闘いなかばにして逝去されました。動労千葉を代表して関川委員長がかけつけ、相川隊長の死を悼み、その無念さ、遺志をひきつぎ、必ずや二期決戦を勝利しぬくことを遺影の前で誓いました。つつしんで報告いたします。

現地大結集を訴えている反対同盟に、今こそ農労連帯の矜持にかけて総決起しうではありませんか。決戦突入下の一月十日、反対同盟の旗幟が成功裡に勝ちとられました。その中の決意と発言を紹介します。(編集委員会)